



コート担当番担当クラブ

9月: 10月分のコート: 本町C
 10月: 11月分のコート: 美住B
 11月: 12月分のコート: 恩多B

発行責任者 柳 利夫
 住所 東村山市菟山町 5-6-26-301
 Tel 0423-95-9849
 編集責任者 佐藤多喜男
 Tel 0425-32-2684

第6回 運営委員会報告

8月11日(日)
 (※) スポーツセンター

1. 秋季市民大会の件

市民体育大会, 硬式庭球大会は、次の通り行われる。

日程・種別 別表のとおり
 会場 久米川テニスコート
 資格 市内在住、在勤、在学、在クラブの方
 参加費 シングルス 800円
 ダブルス 1組 1,000円

《硬式庭球大会日程表》

種別	期日
男子シングルスA	9月8日(日)
男子シングルスB	9月15日(日)
女子シングルスA・B	9月16日(月)
壮年シングルス	
男子ダブルスB	9月22日(日)
男子ダブルスA	9月23日(月)
女子ダブルスA・B	9月29日(日)
壮年ダブルス	

《注意》 ①申し込み後の変更(ダブルスやペア変更など)はできません。

② 集合時間 8:00 試合開始 8:30

2. テニス保険の件

先般加入したテニス保険の取扱い店が変更になりましたのでお知らせします。(事務所新設による)

《新住所》 〒110 東京都台東区上野5の1の1
 文昌堂ビル7階 Tel: 03(833)7131(代)
 東京海上火災保険株式会社 東京営業第二部
 直営第二課 課長 沼谷純一、鈴木元典

3. 市民テ合宿の件

日程・場所を次の通り決定した。具体的な内容については、次回運営委員会で検討する。

- ① 11月8日(金), 9日(土), 10日(日)
 (9日, 10日はアドコー4による講習あり)
- ② 山中湖・井戸前旅館
- ③ 募集人員 約30名程度の予定

4. 柏崎戦の件

硬庭連より(武谷氏), 下記の通り日程決定した旨、報告された。

〈日時〉 8月24日, 25日
 〈場所〉 軽井沢
 〈交通〉 西武バスをチャーターする
 〈参加者〉 役員 4名
 選手 男子 21名
 女子 15名

こんな時、トースル??

(裏面の「なるほど」サ・テニスからの続き)

エリマキ君が、まちが、コートからサーブをし、ポイントを失いました。それから、実はまちが、コートからサーブしたので、今のはフォルトだと主張しました。これは正しいですか?

- (ア) 正しい
- (イ) レットにする

答えはウラ面へ

なるほど・ザ・テニス (第10回) ～サーブについて～

・技術部部長・ 武谷 直也

「エ！ 今日のエリマキ君どうなってるの？
またノータッチサーブ。オイオイちょっとはサーブ入れてくれよな、エリマキ君。とにかくエリマキ君のサーブは不安定で、その日になってみないと、どうなるか分らない有様なのです。ラック嬢はというと、入るには入るのですが、ふらふらのヨーロッパボール。一緒に組んだネットマンは、剣道の胴衣をつけないと命がとれないというしるもの。でも、ダブルフォルトはほとんどありません。

エリマキ君のサーブをより安定させることと、ラック嬢のサーブをもう少し強くすることについて考えてみましょう。サーブ程、心理的な影響を受けるストロークはありません。でも、今は技術的な面のみ考えることにします。

まず、エリマキ君の場合ですが、第一にフラット打ちから、回転(スピン)の多くなったサーブを身につけることです。1m70cmそこそこのエリマキ君が、カッパいフラットで強打して入るのか不思議なのは、物理学的に当然なのです。

では、どのようにすればボールに回転がかかるのでしょうか。端的にいいますと、打ちたい方向に対し、ラケット面を直角に向けるのではなく、直角から面をずらして(斜角面)インパクトするのです。

その場合、その斜角面がボールのどこを、どの方向にスイングされるかで、回転方向と打球方向が決まってくるのです。この回転方向の違いにより、スピンサーブやアメリカンツイスト(ツイスト)サーブ、スライスサーブなどの呼び名のサーブが誕生するわけなのです。詳しくは、紙上では困難ですので、コートで説明しましょう。

第二に、思い通りのところにトスがでるようになることです。このトスの位置は、上手な人程ほとんど変わらず、それについて回転を変えたり、環筋を変えてきますが、エリマキ君やラック嬢の段階では、トスの位置を変えて、回転や環筋を変えるほうが安全でしょう。

それでは、どこにトスを上げればいいのかというのでしょうか。これかまた、説明に大変困るところなのですが、なぜなら、回転の種類によってトスの位置は違ってきますし、その人その人のサーブの姿勢

によっても、トスの位置は微妙に違ってくるからなのです。ただ、ごく一般的にいえることは、回転のかかったサーブをするときは、特にラケットが下から上へ振り上げられる過程でインパクトされるのであって、けっして下方へ打たれるのではないということです。

私とテニス 美佐クラブ 岡山 俊吉

「私とテニス」という題を与えられて、浮かんでくる言葉は、「とびかく面白い」「文句なしに好きだ」「私のテニス歴もずいぶん長くなったなあ」といったところです。

初めてテニスコートに立ったのは昭和17、8年頃、つまり太平洋戦争の初期の頃で、たった一夜だけですが、父が会社のコートに連れて行ってくれたことを覚えています。その後、熊本に疎開していた学生時代に、我家にたった一本だけあったラケットが縁で、軟式テニスとつき合い始めました。

軟式に転じたのは昭和30年頃なので、日本人としてはかなり早い方でした。いろいろ事情が三回程中断しましたが、三回目の約6年及びぶ中断を経て、昨年1月から市民テに入っていたとき今日まで熱心にはげんでいる次第です。

あまり自慢にはなりません、市民テに入っていたく前には、講習会とかスクールとかあったのに参加したことが一度もありません。これは特に信念とか考えがあってのことではなく、見よう見まねでやらざるをえない時代が少なかったため、所帯を失っただけのことで、そのため、今になって基礎の大切さを思い知らされているという訳です。

試合を見る方では、日本に、戦後初めてプロテニスが来るとき、田園コートで、プレーヤーやセツジマンのプレーに興居したことをなつかしく思い出します。テニスの対フィリピン戦で、加茂玄成選手が、足にケイレンをおこしながらデイト選手を破った試合も印象に残っています。

自分のテニスを一言で評するならば、「頭デッカチのテニス」といったところでしょうか。つまり、テニスに関する知識と実戦との間のヒラキが大きいということです。しかし、何ごとによらず、趣味というものは、人それぞれ楽しむ方があってよい訳で、いけば、アマとカラダの両方でたっぷりテニスを楽しんでいきます。まあ、一種のひらき直りの心境です。

市民テの皆さんと比べると、確かに若いとはいえませんが、今夜こそは決して中断することなくテニスを続けていくつもりです。家内とそとをよろしくお預け致します。

答之(イ)…正しいコートからサーブをし直す。